

NEW COVER

by NEUTRAL COLORS

青森
八戸ブックセンター
公共

- 1 法は君のためにある—みんなとうまく生きるには
- 2 そもそも民主主義ってなんですか？
- 3 はじめての公共訴訟
- 4 一社会を動かす、私たちのツール
- 5 新増補版 心の傷を癒すということ
- 6 大災害と心のケア
- 7 教養の書
- 8 人間の安全保障
- 9 社会問題と何か
- 10 ゆうびんやのくまさん
- 11 生きる
- 12 わたしたちのケーキのわけかた
- 13 注意読本
- 14 どうしたらいいかわからない君のための
- 15 人生の歩きかた図鑑



岩手
BOOKNERD
街と本屋

- 1 バブリック・ライフ学入門
- 2 アメリカ大都市の死と生
- 3 S,M,L,XL+現代都市をめぐるエッセイ
- 4 全スケートボード史
- 5 〈迂回する経済〉の都市論
- 6 ラインズ
- 7 まちライブラリーの研究
- 8 シェイクスピア&カンパニー書店の優しき日々
- 9 エンデの遺言 根源からお金を問うこと
- 10 大切にしたいものは何？
- 11 ハーレムの闘り本屋：ルイス・ミショーの生涯
- 12 書店風雲録
- 13 コルシア書店の仲間たち
- 14 ビダハン—言語本能を超える文化と世界観
- 15 ぼくは本屋のおやじさん



秋田
川添い
流れる

- 1 ドーリアの船
- 2 国境の南、太陽の西
- 3 大きなシステムと小さなファンタジー
- 4 べつつの言葉で
- 5 取るに足らない大事なこと
- 6 生きている実感がはしくて、川を歩いている
- 7 長い旅の途上
- 8 火山のふもとで
- 9 果樹の下で
- 10 くらやみに、馬という
- 11 体の贈り物
- 12 季節を脱いで ふたりは滑る
- 13 ここはとてもしない川
- 14 いまここ
- 15 目をあけてごらん離陸するから



HACHINOHE 東北つづける書店

2026.10.10土—
2027.1.11月・祝

火曜休館 10時–20時 (日・祝は19時まで)
年末年始12月29日 (火)–1月1日 (金) 休館

山形
ペンギン文庫
自然

- 1 目であるく、かたちをきく、さわってみる
- 2 火を焚きなさい
- 3 宙をつつむ
- 4 よあけ
- 5 いきることばつむぐいのち
- 6 忘れてしまう些細なこと/のものとしゅうへい
- 7 光の粒子
- 8 愛蔵版イヌイトの壁かけ 永原のくらしと布絵
- 9 僕はひとり夜がひろがる
- 10 歩きながらはじまること
- 11 季節のかたみ
- 12 植物誌
- 13 冒険家たちのスケッチブック
- 14 植物と叢智の守り人
- 15 水の出会う場所



宮城
曲線
夢

- 1 鏡のなかの鏡
- 2 ホフマニアーナ
- 3 レクイエム
- 4 朝と夕
- 5 悲しみの星
- 6 白昼のスカイスクレイパー
- 7 義弟全史
- 8 桃の島々
- 9 BARBACHICA
- 10 ドクロ
- 11 平行植物
- 12 Staging Fire and Constellations
- 13 夢のなかの夢
- 14 サタンタンゴ
- 15 眩暈



福島
コウド舎
時間

- 1 ドリナの橋
- 2 モータープール
- 3 KIPUKA
- 4 現代マンガ選集 日常の淵
- 5 導光—花は盛り—to
- 6 どうぶつの修復
- 7 ことばのまわり—10年目を歩く
- 8 古典との再会
- 9 ずっとあった店
- 10 二式に2
- 11 平和と愚かさ
- 12 ねじまき鳥クロニクル
- 13 熊を放つ
- 14 FLAT HOUSE
- 15 THE MOVING



主催・八戸ブックセンター

青森

八戸ブックセンター

「本のまち八戸」の拠点として、2016年に誕生した八戸ブックセンターは、全国でも珍しい書店機能を持つ公共施設。民間書店の機能や品揃えを補い、触れる機会の少なかった本との出会いを提供しています。本を買い、自分のものにして読む「私有」の体験を大切に、読書会やトークイベント、展示などを通して、読む人、書く人を増やし、本でまちを盛り上げる活動も展開。今回のテーマは「公共」。それは「みんなで生きていくこと」です。



八戸ブックセンター

秋田

川添い

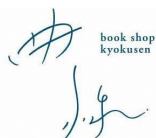
秋田県を流れる雄物川のそばにある「川添い」は、本・菓子・喫茶と企画の場所。一階では新刊やZINE、古書、季節の焼き菓子や珈琲を販売・提供し、2階には一人で過ごすための「読み書き室」を設けています。読書会や朗読会なども開き、川のように日々流れゆく思考や感情を「読み聴き書く」ことを通して掬い上げ、その営みに寄り添う場所を目指しています。テーマは「流れ」。川と本、その先に広がるものへ想像をめぐらせる15冊です。



宮城

曲線

さまざまな感情や時間、思考が留まり、そこから生まれる風景や、見過ごしてきた情景を誰にも咎められず見つめることができる。「曲線」は、そんな不可侵な場所でありたいと考えています。孤独なときに思い出し、ふと足が向く場所として。現在は店舗の移転作業の只中にあり、新しい場所を表す言葉はまだありません。テーマは「夢」。その言葉を探するため、そして訪れる人がそれぞれの夢とともにあれるように、15冊の本を選びました。



岩手

BOOKNERD

2017年、盛岡市紺屋町で小さな古書店としてスタート。客足が伸びず、ひたすら考えたのは、街に何を求められているか。通りを歩き、店々をたずね、耳を澄ますうちに品揃えも店の風景も変わっていききました。2024年、今の店舗に移転。毎月展示が行われ、トークイベントも開催され、コーヒーで一息つく人や絵本を選ぶ親子が訪れる、そんな店になりました。テーマは「ぼくと街と本屋」。今日もどこの街で本屋は本屋の役割を生きています。



山形

ペンギン文庫

2015年、仙台市を拠点に移動本屋として始動。2024年には山形市の複合施設内に固定店舗をオープンしました。普段本屋に足を運ばない人にも本を手にとってもらえる環境を目指し、写真や美術、文芸、詩などの新刊書を中心に、本の可能性を届けてきました。今回のテーマは「自然」。仙台から山形へ、峠を一つ越えるだけでガラリと表情を変える気候風土に、自然の厳しさと美しさを感じながら、植物の成長過程に見立てた15冊を紹介します。



ペンギン文庫

福島

コウド舎

福島県浪江町、東日本大震災時の仮設住宅を移築した「STUDIO B-6」のなかに、2025年に開いたコウド舎。「耕す」「土」から名づけ、本を選び、読むことを自分自身を耕すような時間と捉えています。地域の方から持ち寄られる古本を中心に、時代や地域、ジャンルが思いがけず混ざり合い、浪江町やビーロクの現在地を耕す新刊も並びます。テーマは「時間」。変わりゆく町で、過去から遠い未来まで、さまざまな時間に想像をめぐらせる15冊です。



NEW COVER

青森八戸ブックセンターを拠点に、岩手、秋田、山形、宮城、福島の東北6書店が集結。各店の選書本と言葉を展示します。東北に散らばる独立書店は、地域性や店主の審美眼によって、地方にあっても街を訪れる理由にもなっています。書店が街から消える、クリシェのごとく言われていますが、東北の6書店はそれぞれの方法でつづける道を模索しています。本展示では、6店舗が15冊を選書して、言葉を紡ぎました。そして10周年を迎える八戸ブックセンターが、紙から本が生まれ、読者に届く中間地点となります。出版社であり、印刷所、書店NEW COVERを手がけるNEUTRAL COLORSが案内します。

NEUTRAL COLORSは独立した出版社であり、発行する雑誌であり、印刷製本所の名前でもあります。その3つは有機的につながります。出版スタイルの特徴は、個人が集まって印刷、製本、流通までを一貫して行うことにあります。大量商業印刷物と少部数インディペンデント出版の中間（雑誌で5000部／書籍やアートブックで300～1000部ほど）、経済的に持続可能な中規模出版モデルを目指して活動しています。2025年には工房内で書店NEW COVERを開始。世界中のアートブックフェアで見つけたアートブックを販売します。

八戸ブックセンター

〒031-0033

青森県八戸市六日町16番地2 Garden Terrace 1階

TEL：0178-20-8368

開館時間：10:00～20:00（日・祝は10:00～19:00）

休館日：毎週火曜日（祝日の場合はその翌平日）

web <https://8book.jp>

アクセス

【バス】八戸駅東口から八戸市中心街行き約25分。

「十三日町」または「八戸中心街ターミナル（八日町）」下車すぐ

【鉄道】八戸駅からJR八戸線「本八戸」駅下車徒歩約10分

※駐車場はございません。周辺の駐車場をご利用ください。

